

『論語』

孔子の教えを読み解き、自分の考えをもつ。

◎孔子の教えを漢字一字で表そう。

顔淵【一】を問ふ。
子曰、「克己復礼為【一】。」
樊遲【一】を問ふ。
子曰、「愛人。」
仲弓【一】を問ふ。
子曰、「己所不欲、勿施於人。」

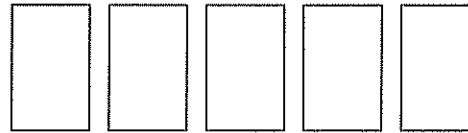
★話し合いのときに

一人一意見を述べる

◇根拠を述べる

◇前の人の意見に続ける

◎各班の意見(ホワイトボード掲示)



「仁」とは？
根拠と
具体例を用いて
書く

本時の流れ
①【一】にあてはまる漢字は何か。

◆前時の内容を音読し、孔子の教えは現代にも通じることを伝えただ上で、本時の課題を提示する。
◆生徒にはプリントを配付し、黒板には拡大したものを提示する。【一】には付箋に書いた字を後で貼り付ける。

②【一】の漢字について話し合う。

◆話し合いの前に、注意点を伝える。

◆班の意見はホワイトボードに記入させる。ボードを各班とも提示させた状態で、全体に発表する。

◆仲弓が仁を行う方法を尋ねたことを補足し、孔子の言葉を現代語で捉えさせたり、漢字の成り立ちを伝えたりすることで、次の課題へのヒントにする。

③自分の言葉で「仁」を説明するとどうなるか。

◆条件1〜3に当てはまるよう、構成を提示する。まず、自分が考える仁を述べ、その根拠を書く。具体例を用いることも伝えることで、条件作文を書かせたい。

◆最後は、数名分の原稿を紹介することで、多様な考えにふれさせる。また、課題どおりの書き方になっているかの確認をさせる。

1 主眼

孔子の教えについて話し合ったり、原文を読み取ったりする活動を通して、「仁」の意味を自分の言葉で説明することができる。

2 指導上の留意点

- ①現代語訳を参考にしたり、他者の意見を聞いたりすることで、一人1意見は出させる。
- ②班の意見は無理に1つにまとめず、他者の意見を聞くことで、思考を広げさせる。
- ③対比の仕方が分からない場合には同感(賛成)か否かで書かせる。

評価

- ・自分の意見と根拠を明かにして話し、他者の意見に耳を傾けることができたか。【話す・聞く】
- ・孔子の教えと対比し、具体例を用いて自分の考えが説明できたか。【書く】

「流水と私たちの暮らし」 青田昌秋

筆者の工夫を説明しよう(比喩)

○オホーツク海は、

高感度の地球の温度センサー

= なのである。

気温

百年で一度上昇

← 流水 半減

白 視界全体氷野

← 青 凍らない

○「温度センサー」の効果

- ・ 敏感に反応
- ・ 自動的に反応
- ・ 目的(守る、知らせる)

- ・ 「自然からの警告」が強調
- ・ 自然環境の異常
- ・ 危険や危機が迫っている

比喩の効果

- ・ 読者にわかりやすい
- ・ イメージしやすい
- ・ 伝わりやすい

言葉(表現)の選択 = 筆者の工夫

本時の流れ

①文章後半(一六四頁一七行(最後))を音読し、なぜオホーツク海を「高感度の温度センサー」と表現しているのかを捉える。

◆「高感度」にあたる叙述として、平均気温一度の上昇で流水面積が半減することを捉え、冬場のオホーツク海の正常時・異常時を「白」「青」の言葉を使って表現させることで、「温度センサー」の意味を理解する。

②「温度センサー」と「体温計」の表現を比較し、受ける印象から比喩の効果を考える。

◆「温度センサー」という言葉の使用から、筆者の感じている「危機感」をも表現しようとしている意図を捉え、説明する。

③前時と本時の学習から、筆者が比喩を通して読者に伝えようとしている事柄を理解することで、比喩の効果を理解する。

◆前時と本時の学習を振り返り、比喩の効果・言葉の選択をした筆者の思いを級友と説明し合うことで、学習の整理をする。

1 主眼

オホーツク海を比喩表現した「センサー」と「体温計」を比較することで、言葉のもつ効果を捉え、筆者の工夫を説明することができる。

2 指導上の留意点

- ①「高感度」とは、「感度がよく敏感に感じる」ということや、気温の違いによってオホーツク海がどのような状態になるかを押さえ、理解できるようにする。
- ②筆者がオホーツク海を「体温計」とも表現していることを知らせ、「温度センサー」という表現から、筆者が「危機感」を伝えようとしていることを捉えられるようにする。
- ③比喩として生活に身近なものや言葉から受ける印象を重視した表現をすることで、通常の生活には馴染みの薄い「流水」と環境の悪化を捉えさせたいという筆者の意図を理解できるようにする。

評価

筆者が表現を選択し、読者に伝えたいことを、より正確に伝わるように工夫していることを説明できたか。

1 主眼

2020年東京オリンピック招致決定について伝える二つの新聞記事の内容・構成・展開の違いを比較することを通して、表現の背後にある書き手の意図について自分の考えを持つことができる。

2 指導上の留意点

① 共通点や相違点を探す活動では、必要に応じてペア学習や周囲の者と相談する活動を取り入れて、発表しやすい雰囲気づくりをする。内容だけでなく、書き方や分量、印象的な言葉などにも言及できるよう支援する。

② 班での話し合い活動の際は、司会者が話し合いの話題や方向を捉えて的確に話せるように、司会者の役割を確認しておく。また、話し合いでは、まず自分の意見をしっかりと持つこと、さらに、理由をしっかりと説明することができるよう指導する。

③ 表現の背後にある伝え手の意図に気付かせ、これからの「読み」に生かそうとする態度を身につけさせたい。

評価

表現の背後にある書き手の意図に気付き、これからの「読み」に生かそうとすることができたか。

☆意図を意識して読んだり書いたりする。

意図 → 表現
表現 → 意図

まとめ

表現の背後には書き手の意図がある。

多くの情報を広く浅く
事実を客観的に

自分の考え → 絞った情報を深く
鮮を感動的に

内容・構成・展開等		
A社の特徴	A社	共通点と相違点
B社の特徴	B社	
両方にあるもの	共通	

どんなこととどのよう

めあて

二つの新聞記事の共通点と相違点をもとに、それぞれどんなことを、どのように書いているのかを比較し、表現の背後にある書き手の意図について考えよう。

④ 本時のまとめをする。

どんな文章も表現の裏には、伝え手の意図が存在します。それに注意しながら読み、自分の考えを持つことが大切です。

二つの記事の書き方の違いの背後にある書き手の意図について、どちらに賛同するかを選び、その理由を書きましょう。

① 本時の学習の見通しを立てる。

前時にまとめた二つの新聞記事の段落ごとの要約をもとに、共通点と相違点を探し、発表しましょう。

◆ 前時にまとめた段落ごとの要約(スクリーン)を確認する。それをもとにA新聞とB新聞の内容・構成・展開等について共通点や相違点を探し、発表する。

◆ 発表の観点が偏っている場合は、観点を広げられるよう助言する。

② A新聞とB新聞はそれぞれどんなことをどのように書いているのか、「○○をくように」という形で表現し、班で意見交換し、まとめましょう。

◆ まず、ワークシートを使い、どんなことをどのように伝えようとしているか、各自で考え表現する。

◆ 班で意見交換をし、まとめたことを短冊に記入し、黒板に貼って説明する。

◆ A社とB社の書き方の違いが書き手の意図の違いによるものであることを押さえる。

③ 二つの記事の書き方の違いの背後にある書き手の意図について自分の考えを述べる。

3年 2組

教科名 国語

指導者名

濱崎美幸

1 単元・教材名 「君待つて一万年 古今・新古今一」

2 主眼 (ねらい) 二首の短歌を比較し、韻律や描いた情景の違いに気がつくことができる。
表現の違いを根拠に「よ」として、それぞれの短歌の特徴を説明できるようにできる。

3 めあて 二首の短歌を比較して詠む味わい。

4 準備物

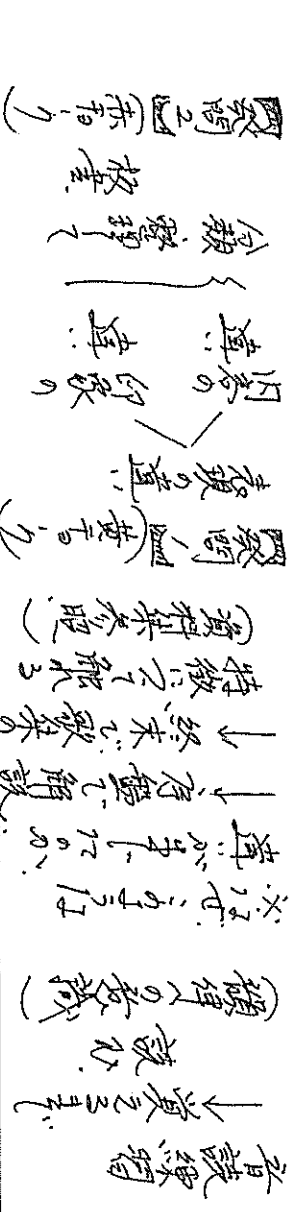
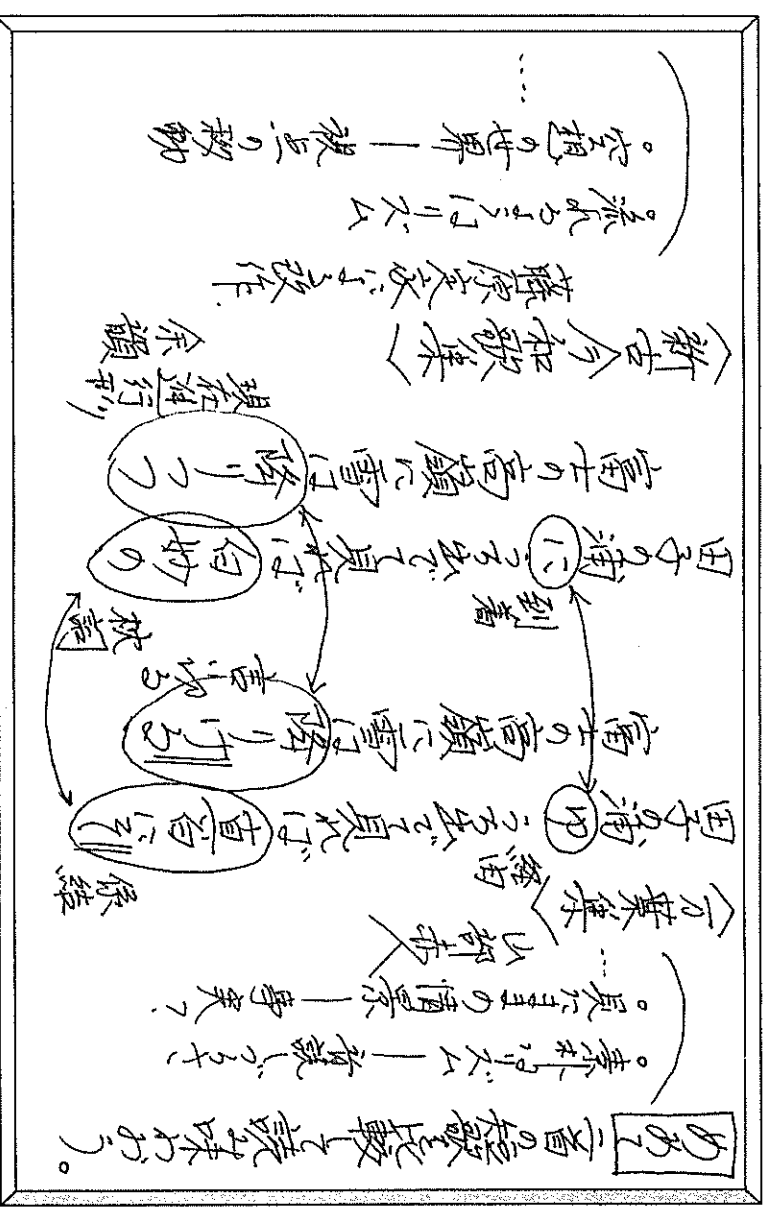
ワーキングシート

5 板書計画および留意点

平成 25年 10月 16日 (水)

【発問1】
自分が好きは
短歌とどうなるの。
また、その理由
はこのように
わかるか。

【発問2】
この短歌が
どうなっているか。
薄くてもいい



1 主眼
本文の情景や引用された言葉をふまえて俳句に込められた芭蕉の『無常感』をとらえることができる。

2 指導上の留意点

① 「…跡」「金鶏山」「北上川」「衣川」などの言葉から、人の築いたものはなくなり、山河などは残っていることに気付かせたい。既習の古典作品と同様に、『無常観』に注目して作者の思いをとらえることを説明する。

② 芭蕉の感じている『無常』の込められた表現として、「三代の栄耀一睡のうちにして」、「功名一時の草むらとなる」に注目させたい。また、『無常感』の手がかりとなる体験について想起させる。

③ ここまで読み取ったことを手がかりに、本文の情景や引用された言葉をふまえて、俳句に込められた芭蕉の『無常感』について説明させる。人の営みや栄華のはかなさに対して芭蕉の抱いた『無常感』を、板書の内容を参考にしながら表現や話し合い活動をさせたい。

評価
本文の情景描写や引用された言葉、俳句から読み取った芭蕉思いを表現している。

夏草 — 「おくのほそ道」から

本文の情景や引用された言葉をふまえて俳句に込められた芭蕉の『無常感』をとらえることができる。

平泉で：
大門の跡 秀衡が跡
和泉が城
泰衡らが旧跡 衣が関
残っていない
人工物↑対比 ↓自然のもの
この世の全てのものは移り変わる はかない
無常観
観：見方・考え方
感：思い・気持ち

金鶏山
高館(山)
北上川 衣川
残っている

藤原氏：三代の栄耀 一睡のうちにして
源義経：功名 一時の草むらとなる
「国破れて山河あり 城春にして草青みたり」杜甫

深化
俳句に込められた芭蕉の「無常感」を解説しよう

夏草や兵どもが夢の跡
榮えていたものもはかなく消えてしまい、
自然に戻るのだなあ。
兵士たちが勝ると夢を懸けて戦った場所にも残っていないなあ。
城の跡形もなく草が生い茂っている。はかないものだ。

本時の流れ

① 予習をもとに、平泉の場面で描かれているものを残っているものといないものに分ける

◆ 建物など人の作ったものは残らず、山や川など自然のものが残っていることから、既習の「無常観」と結び付ける。

※ 深化課題に全ての生徒が取り組めるよう、ポイントとなる事柄は赤(ゴシック体)で板書する。

② 芭蕉が藤原氏と源義経の滅亡について抱いた『無常感』が込められた表現を本文から抜き出して説明する。

◆ 抜き出した表現とその理由を二人組を作ってお互いに説明させる。

◆ 「無常観」「無常感」の違いを説明し、自分の体験を思い起こさせる。

③ 俳句「夏草や兵どもが夢の跡」に込められた芭蕉の無常感を解説する。

◆ 板書にある情景や、芭蕉の思いのこもった表現、引用された漢詩などに注目しながら考えさせ、グループの話し合いを通して深めたことを発表させる。

④ 授業を通してわかったことやよくわからなかったことを自己評価として記述する。

1 主眼
「私」の考える「希望」から、「私」の考えに対する自分の考えを整理し、「私」の考えをとらえる。

2 指導上の留意点

- ①部分的な読みからとらえさせるのではなく、作品全体の「私」の考えからとらえさせる。
- ②作品の中の語句や表現を根拠に考えさせる。
- ③生徒の発言を位置づけ、つなげることで読みを深化させる。
- ④以下の視点を押さえ、考えさせる。
 - ・「もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」の「道」を「希望」に置き換えて考えさせる。
 - ・「ヤンおばさん」を「私」はどのようにとらえているか確認させる。
 - ・現在の「ルントウ」を「私」はどのようにとらえているか確認させる。

評価
「私」の考えを分析することで、「私」の考えをとらえることができたか。

故郷

魯迅

課題
「私」の考える『希望』をもとに、「私」の考えを分析しよう。

・思うに希望とは、もともとあるものもいえぬし、ないものともいえない。
・それは、地上の道のようなものである。
・もともと地上には道はない。歩く人が多くなればそれが道になるのだ。
「希望」

「希望」について「私」はどのように考えていますか。

・私のように、むだの積み重ねで魂をすり減らす生活を共にすることは願わない。
・ルントウのように、打ちひしがれて心が麻痺する生活を共にすることも願わない。
・他の人のように、やけを起こして野放図に走る生活を共にすることも願わない。

希望「新しい生活」

← 偶像崇拜 →

→ 香炉と燭台

本時の流れ

- ①本時の学習課題を確認し、第六場面を各自で音読する。
- ◆課題を認識させ、第六場面を音読させる。
- ②「私」のいう『希望』とはどのようなものか、自分の考えをまとめさせる。
 - ◆作品の最後の一文の「道」の部分を「希望」に置き換えて、「私」は「希望」についてどのように考えているか、自分のとらえ方をまとめさせる。
- ③班で、次の手順で意見を交換させる。
 - ・各自で考えたことを、班の仲間に説明する。
 - ・司会者を中心に、作品に対する各自の考えを意見交換する。
 - ・意見交換後、さらに、班で作品の情景や心情を考える。
 - ◆班で話し合うことで、自分のとらえかたを再認識させ、考えを深めさせる。
- ④各班で話し合ったことを学級全体に報告し、考えを共有させる。
- ◆さらに、学級全体の意見を聞くことで、自分の考えと比較させ、とらえかたを確認させる。
- ⑤本時のまとめをする。
- ◆学習プリントに三行程度の感想を書かせる。

「身近な資料を読み取り意見文を書こう～文章の構成を工夫し、立場と根拠を明確にして書く～」(2年2組)

平成25年11月21日(木)

指導者 山下 恵美

1 主眼

事実や体験、資料から読み取った内容を根拠に自分の立場を決定することができる。

2 指導上の留意点

①生徒の関心や意欲を高めるために生活に結びついた身近なテーマや資料を提示する。

②平日の睡眠時間、平日のテレビ等の視聴時間等のグラフを全国と比較してわかったことを書かせることによって思考力や分析力を高めさせる。

③自分の立場の明確な根拠をもたせるために資料を選択させる。

④意見文の構成が定着するようにワークシートを構造化する。

評価

資料から読み取ったことや事実や経験を根拠に自分の立場を決め、その根拠を書いている。

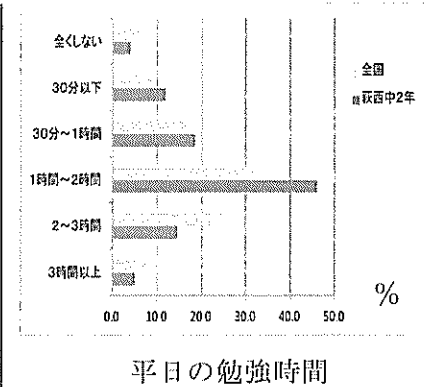
意見文の構成

書きだし(話題の提示)
筆者の意見
根拠①
根拠②
反論に対する意見
結び

双括式

平日の学習時間を増やすにはどうしたらよいか。

- A テレビやビデオ、DVDの視聴時間を減らしたらよい。
- B 睡眠時間を減らしたらよい。
- C その他



説得力のある意見文を書こう。
資料を読み(根拠)を明らかにして自分の立場を決定しよう。

本時の流れ

①前時に学習した意見文の構成や工夫を振り返る。

②資料(グラフ等)を読み取り、わかったことをワークシートにまとめる。
□ 平日の勉強時間

◆「平日の家庭学習時間を増やすためにはどうしたらよいか。」というテーマを示す。
□ 平日の睡眠時間
□ 平日のテレビ・ビデオ・DVDの視聴時間
□ 平日のゲーム時間
□ 「健やかだより」(保健室通信)

※資料は「全国学力学習状況調査生徒質問紙」
「学力定着状況確認問題生徒質問紙」
「保健委員会アンケート」から作成

◆それぞれ読み取ったことの共通点や相違点に注意させながらグループで情報や知識を共有させる。

③資料から読み取ったことや事実や経験を根拠にテーマについて自分の立場を決める。

◆三種類の立場を提示し、立場を決めやすくする。

◆立場に応じて根拠となる資料を選択させ、事実や経験を織り交ぜ、その根拠をワークシートにまとめさせる。